

観光関連事業者向け、

福岡型サステナブルツーリズム 事例集



令和5年3月作成

1. サステナブルツーリズムについて

- (1) サステナブルツーリズムとは p.2
- (2) 旅行者のニーズ（サステナブルツーリズムに取り組む意義） p.2
- (3) 持続可能な観光の基準・指標について p.3
- (4) モデルツアーの実施 p.3

2. 福岡市観光関連事業者の取組事例

- (1) モデルツアー一覧 p.4
- (2) 取組まとめ p.5
- (3) 各事業者の取組事例 p.6
 - < 各事業者の取組事例の見方 > p.7
 - No.1 旅行業 p.9
 - No.2 地域活性化事業 p.11
 - No.3 建設コンサルタント p.13
 - No.4 広告代理店 p.15
 - No.5 宿泊施設 p.17
 - No.6 公営施設の管理運営 p.19
- (4) 実施後アンケート調査結果 p.21

3. 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の先進事例 p.23

4. サステナブルツーリズム造成チェックシート p.31

5. 出典一覧 p.33

6. サステナブルツーリズム関連用語集 p.34

添付資料

モデルツアー実施後アンケート

1. サステナブルツーリズムについて

(1) サステナブルツーリズムとは

- ①自然環境や地域の暮らし
- ②そこに根付いた文化にも十分配慮し
- ③環境にやさしい方法で旅行することにより、

自然環境の維持や地域課題の解決を図り、地域に経済的利益をもたらすような観光旅行のこと。
下図のように、環境的側面・社会文化的側面・経済的側面を内包していることが重要である。

〈 サステナブルツーリズムに求められる3つの基本要素 〉

地域の活性化

地産地消の収穫



植樹体験



環境に優しい

お寺での座禅



伝統にふれる

※UNWTO 2004

(2) 旅行者のニーズ（サステナブルツーリズムに取り組む意義）

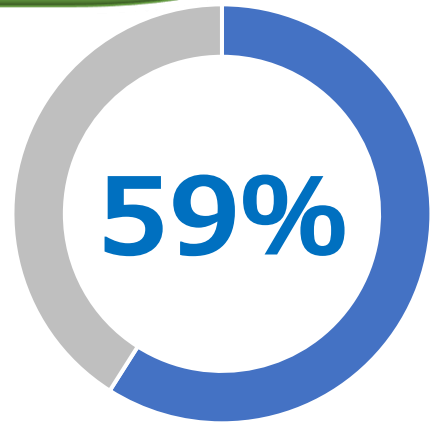
新型コロナウイルス感染症の影響により、旅行のあり方が見つめ直されているとともに、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「SDGs (Sustainable Development Goals/17のゴール・169のターゲットから構成される持続可能な開発目標)」や、地球温暖化による気候変動問題への対応として脱炭素化などカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量の実質ゼロ）を目指す世界的な動きを背景に、観光客のニーズも変容し、環境や地域に配慮したニーズが高まってきており、よりサステナブルな旅を選択しようとする旅行者が増加している。

1. サステナブルツーリズムについて

(2) 旅行者のニーズ（サステナブルツーリズムに取り組む意義）

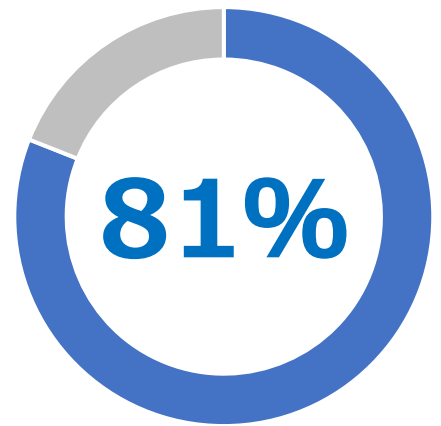
◆環境に優しい方法で旅行するためなら旅費が高くなってもかまわない

出典：Expedia group Traveler Value Index
(2022月11月)



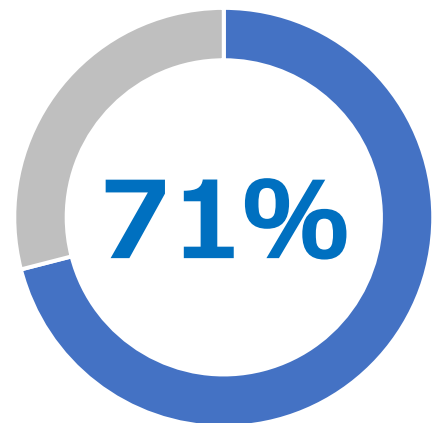
◆サステナブルな旅は自身にとって重要である

出典：Booking.com Sustainable Travel Report 2022
(2022年6月)



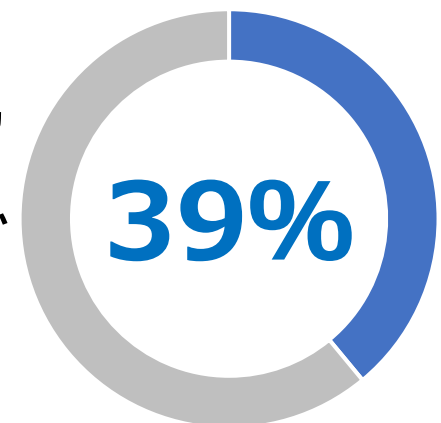
◆今後、1年間でサステナブルな旅を心掛けたい

出典：Booking.com Sustainable Travel Report 2022
(2022年6月)



◆宿泊施設の予約の際に意識しなくても、サステナブルな宿があればそれを選択する可能性が高い

出典：Booking.com Sustainable Travel Report 2022
(2022年6月)



1. サステナブルツーリズムについて

(3) 持続可能な観光の基準・指標について

持続可能な観光の推進と持続可能な観光の国際基準を作ることを目的に、2007年に発足した国際非営利団体「世界持続可能な観光協議会」(GSTC=Global Sustainable Tourism Council)は、持続可能な観光を定義し、その理想像達成に向けた具体的な活動のためのガイドライン(国際基準)を作成、推進している。



※GSTC-Iは、国連において、あらゆる観光事業が到達を目指すべき「最低限の基準」と位置付けられており、

A. 効果的で持続可能な経営管理の明示

B. 地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化

C. 文化遺産の魅力の最大化、悪影響の最小化

D. 環境メリットの最大化、環境負荷の最小化

の主要4分野からなり観光部門全体に適用することが可能。

参考) https://www.gstccouncil.org/wp-content/uploads/GSTC-I-Criteria-Only-v3Dec2016_Japanese.pdf

(4) モデルツアーの実施

次ページより、福岡市の観光関連事業者が、上記持続可能な観光の国際基準および「サステナブルツーリズム」の考え方※を踏まえて構築・実施したモデルツアー・モデルプランを「サステナブルツーリズム」事例として紹介する。

本事例集は「サステナブルツーリズム」への取組を検討するあらゆる事業者の一助としてご活用いただきたい。

※「サステナブルツーリズム」の考え方・・・

参加者の出発地から現地までの移動やツアー中の移動、宿泊施設、食事、アクティビティなど、ツアー中のあらゆる行程において、可能な限り“サステナブル”に配慮し、かつ“ツーリズム”として参加者にとって魅力的なもの

2. 福岡市観光関連事業者の取組事例

(1) モデルツアー一覧

No.	業種	実施エリア	テーマ	ツアーのタイプ*	実施日&日程
1	旅行業	東区、中央区、博多区	学びながら楽しみ、環境に配慮しながら味わい、旬のふくおかを満喫するエコツアー	歴史文化型 自然型	'22年7月24日 日帰り
2	地域活性化事業	東区 志賀島	志賀島での体験（食事・遊び）を通して自然を感じ、サステナブルについて考える	リゾート型 自然型	'22年8月29日 日帰り
3	建設コンサルタント	西区 早良南部地域	福岡市の農や自然に触れ合う里山サステナブルキャンプ	自然型 リゾート型	'22年10月1日 ～10月2日 1泊2日
4	広告代理店	西区 北崎・糸島エリア	環境に優しい旅人になろう！サイクルーシングでサステナブルなアクティビティを楽しむ	自然型	'22年11月14日 日帰り
5	宿泊施設	博多区	人にも地球にも嬉しい「サステナブルな旅」	歴史文化型 都市型 自然型	'22年11月14日 ～11月15日 1泊2日
6	公営施設の管理運営	東区	社会貢献プログラム～“海と森”のSDGs体験～	自然型	'22年7月13日 日帰り

* ツアーのタイプ	主な特徴
都市型	ショッピング、飲食等、市街地を中心とした都市・商業の魅力を主な観光資源とするツアー
歴史文化型	寺社・仏閣、城、歴史的町並み等の文化遺産等を主な観光資源とするツアー
自然型	山岳、高原、湖沼、海岸等の自然景観の鑑賞・体験を主な観光資源とするツアー
温泉型	温泉を提供する宿泊施設等や温泉街を主な観光資源とするツアー
リゾート型	良好な自然条件を有し、自然景観の鑑賞・体験、温泉による保養、スキー等のスポーツ、ショッピングなど、様々なレジャーの体験を主な観光資源とするツアー



2. 福岡市観光関連事業者の取組事例

(2) 取組まとめ

とかく「環境」側面に偏った取組に陥りがちな「持続可能な観光」であるが、本事業では**文化的サステナビリティ**、旅につきものの**「食」まわりのサステナビリティ**等も考慮した**包括的な取組**により、真のサステナブルツーリズムを目指すことができた。

①**CO2抑制に関する成果**…旅行において最もCO2抑制効果が見込める「移動手段」において、公共交通機関のみならず、さらに一歩進みEVバスやe-Bike、自転車等を積極利用することにより、また、やむを得ず排出されたCO2はカーボンオフセットの利用により、成果につながった。

②**サステナブルなポイント**…ビーチクリーンや植樹などの体験を通じた環境配慮・学習に加え、それに伴う「インタープリテーション」= 実感・共感するための**解説**が重要で、**CO2抑制量の数値化に代わる「見える化」**となる。また、観光客満足も重要な指標であり、全てのプランで高評を得た。

* 今回のツアーにおいては、「参加者満足」で判断

事例No.	サステナブルツーリズムの要素				CO2排出量抑制の手法
	環境的に適正	社会文化的に好ましい	経済的に成長できる*	CO2削減	
1	○	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ◆バスでの移動を必要最小限に抑える ◆代替交通手段に環境配慮型車を選択 ◆移動により排出するCO2にカーボンオフセットを活用 ◆地産地消
2	○	○	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ◆徒歩、自転車に加え、よりCO2排出が少ない公共交通を利用 ◆エアコンを使用しない施設を利用 ◆CO2を排出しないアクティビティ（海、ビーチでの遊びなど） ◆地産地消
3	◎		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ◆マイクロツーリズム（移動距離が短い実施場所を選定） ◆植樹活動（CO2を吸収） ◆キャンプ泊により消費電力低減 ◆徹底した地産地消（車両等による食材輸送距離ゼロ）
4	◎	○	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ◆全行程e-Bikeの利用、実施場所までは公共交通機関を利用しやすい旅程に配慮 ◆ごみのコンポスト（堆肥化）による削減 ◆地産地消
5	◎	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ◆全ての移動に再生可能エネルギー100%のEVバスを利用 ◆実施場所への移動は公共交通機関の利用を推奨アナウンス ◆食べ残し等のコンポスト（堆肥化）による削減 ◆全館自然エネルギー由来の電力使用、消費電力を抑えた輻射式冷暖房採用等の環境配慮型ホテルへの滞在 ◆ミートフリーの食事、地産地消
6	◎		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ◆移動は全て徒歩（徒歩圏内で完結するプラン） ◆植樹活動（CO2を吸収） ※今回は未実施

環境的に適正である	社会文化的に好ましい	経済的に成長できる
地域環境問題の削減	伝統、文化の保全	長期的利益の担保
地球環境の保全	地域コミュニティの幸福創出	地域の繁栄
景観保全	地域住民の参加	利益の公平な分配
資源の過剰利用回避	人権尊重と社会平等	観光客満足
環境汚染の回避	ユニバーサルデザイン	就業機会の創出
持続可能な消費と生産	雇用の質	

参考) 「サステナブルツーリズム」の基本3要素

(3) 各事業者の取組事例

2. 福岡市観光関連事業者の取組事例

< 各事業者の取組事例の見方 >

一事例見開き1ページで構成されています。(文中、*1~19については、P32の出典一覧参照)

1ページ目：ツアー概要（実施日、参加者、行程等）がわかるようになっています。

2ページ目：CO2削減効果及び、サステナブルなポイント、実施してみてわかった事業者にとっての課題や今後の商品化等について可能性や検討事項など、他の事業者の皆さんにも参考にしていただける具体例を紹介しています。

30・31ページには、これからサステナブルツーリズムに取り組もうとする事業者のために「造成チェックシート」を掲載しています。最低限備えるべきポイントをまとめていますので、ご活用ください。

“サステナブル”な視点で
ツアー全体を表現したタイトル

参加者(外国人)目線の文化的持続可能性コンテンツを組み込み、魅力UP

学びながら楽しみ、環境に配慮しながら味わい、旬のふくおかを満喫するエコツアー

日本の環境問題については世界の環境問題などを学び、誰もが実現可能な身近なユースを体験するツアー。今後の海外でインバウンドを想定した上で、参加者はUAE教育者のプログラムにて日本を視察する学生。日本の自然・山・海を豊かな生態系・自然を伝承する活動を行う一般社団法人ふくおかUN代表の大神氏の多角的な環境問題についての学習プログラムをマイクログラスターが新たにエッセイを執筆して提供し、日本のサステナブルについて海外目線で学んでもらえたと、サステナブルな食事で日本の伝統芸術体験を楽しんでいたメンバー。

実施日時 2022年7月24日(日) 日曜日

実施場所 福岡市 東区 中區 博多区

参加者 14名：UAE高校生 10名(2名)、UAE卒業生 2名(男性1名、女性1名)、九州大学生 2名(男性1名、女性1名)

主催・協賛 (大人1名あたり)

実施・協力 株式会社 博多区

行程

09:30 集合(博多駅)

10:00 出発(博多駅)

12:00 昼食(博多駅)

13:30 観光(博多駅)

15:00 観光(博多駅)

17:30 観光(博多駅)

18:00 解散(博多駅)

ツアー行程

各事業者が設定した
ツアーのテーマ、及び概要

CO2削減の方法や、本ツアーで実際どのくらい
CO2が削減・抑制できたのか
具体的な数値で紹介(「見える化」)

CO2削減に関する成果 LPGハイブリッド車*利用で、CO2排出量 -10%、グリーン電力購入で、210kgのCO2を削減(相当)

環境負荷の低い代替自給産物でCO2削減

※代替の削減効果(LPGハイブリッドツアー削減) (仮定として210kg削減(削減率約10%削減)※削減率約10%削減(削減率約10%削減)※削減率約10%削減(削減率約10%削減)

グリーン電力購入でカーボンオフセット

「CO2削減銀行(1789稼働設備)」を適用

※削減率約10%削減(削減率約10%削減)※削減率約10%削減(削減率約10%削減)※削減率約10%削減(削減率約10%削減)

“サステナブル”なポイント 地産地消、米ストロー、ハラル対応のサステナブルランチは人気の“アフタヌーンティー”形式を取り入れ、満足度UP

一部環境配慮型交通手段の組み込み+カーボンオフセット

※削減率約10%削減(削減率約10%削減)※削減率約10%削減(削減率約10%削減)※削減率約10%削減(削減率約10%削減)

実施後の事業発展と、今後の可能性

「持続可能な観光」に関する自己評価

総合スコア 282.2 pt /400pt

※削減率約10%削減(削減率約10%削減)※削減率約10%削減(削減率約10%削減)※削減率約10%削減(削減率約10%削減)

事業者視点での
課題や、今後の
展開可能性

ツアー終了後実施の持続可能な観光に関する
国際基準に基づくアンケート調査結果
(自己評価結果)を紹介

※ご覧いただいている事業者の皆さんも簡単に実施できるので、巻末のアンケート調査を「国際基準」を知ること自体を含め、ご自身の現在地を知るツールとしてご活用いただきたい。

いわゆる「あご・あし・まくら」(食事・交通・宿泊)と「アクティビティ」(体験)毎に、詳しく「サステナブル」なポイントを紹介

※「参加者評価・満足度」は星の数(1~5つ)で表示。

【凡例】各内容が、食事・交通・宿泊・アクティビティのどれに該当するのか、アイコン化

食事 (あご)
 交通 (あし)
 宿泊 (まくら)

体験 (アクティビティ)
 参加者評価・満足度



参加者(外国人)目線の文化的サステナビリティコンテンツを組み込み、魅力UP



プランテーマ ・ 概要

学びながら楽しみ、環境に配慮しながら味わい、旬のふくおかを満喫するエコツアー

日本の環境問題ひいては世界の環境問題などを学び、誰もが実現可能で身近なリユースを体験するツアー。今後の販路としてインバウンドを想定した上で、参加者はUAE教育省のプログラムにて日本を視察する学生。日本の海や山に残る豊かな生態系・自然を伝承する活動を行う一般社団法人ふくおかFUN代表の大神氏の多角的な環境問題についての学習プログラムをマイクロプラスチックを使った創作体験を交えて行い、日本のサステナブルについて海外目線で学んでもらうとともに、サステナブルな食事と日本の伝統文化体験も楽しんでいただくプラン。

実施期間	形態
2022年7月24日(日)	日帰り
実施場所	
福岡市 東区/中央区/博多区	
参加者	
14名: UAE高校生 10名(女性)	UAE引率 2名(男性1名、女性1名)
	九州大学引率 2名(男性1名、女性1名)
想定価格(税込・大人1名あたり)	
@49,215円	

行程

<p>グランドハイアットホテル</p>  <p>時間: 9:30</p> <p>LPGハイブリッドタクシー</p>	<p>⇒ ⇒ ⇒</p> <p>マリンワールド海の中道</p> <ol style="list-style-type: none"> 水族館バックヤードツアー・通常見学(60min) 環境学習(15min) マイクロプラスチックを使った万華鏡制作(45min)  <p>JTB×ふくおかFUN×マリンワールド</p> <p>10:00</p>	<p>⇒ ⇒ ⇒</p> <p>志賀島の海立ち寄り</p>  <p>ふくおかFUN大神代表同行 志賀島のガイドツアー付き ※場合によっては休暇村にて記念撮影など</p> <p>貸切バス</p> <p>12:00</p>	<p>⇒ ⇒ ⇒</p> <p>昼食</p> <p>ホテルモントレ サステナブルアフタヌーンティー</p>  <p>JTB調整中</p> <p>貸切バス</p> <p>13:30</p>
<p>⇒ ⇒ ⇒</p> <p>博多旧市街 【博多人形絵付け体験】 【街歩き】</p>  <p>15:00</p>	<p>⇒ ⇒ ⇒</p> <p>グランドハイアットホテル</p>  <p>徒歩</p> <p>17:30</p> <p>18:00</p>	 <p>マイクロプラスチックを使用したオリジナル万華鏡づくり体験</p>	

CO2抑制に関する成果

LPGハイブリッド車利用で、CO2排出量 - 10%、
グリーン電力購入で、210kgのCO2を削減（相当）

環境負荷の低い代替交通手段でCO2削減



次世代自動車 LPGハイブリッドタクシー利用：
（ホテルからマリンワールド海の中道まで約21km）
通常のタクシー利用に比べ、CO2排出量を10%削減*1
⇒ 削減できたCO2量は 0.273kg*

グリーン電力購入でカーボンオフセット



「CO2ゼロ旅行®」(JTB登録商標) を活用：
移動でどうしても排出してしまうCO2に対し、走行距離に応じた
グリーンエネルギーを購入し、間接的にCO2を打ち消す
⇒ バス・タクシーの総走行距離 = 56.1km
⇒⇒ CO2排出量 = 210kg*
⇒⇒⇒ 210kgのCO2を打ち消すために必要な
「グリーン電力相当量」= 1,000kwh*2 を購入
（1名あたり471円を旅行代金に組み込み）
※500wの電子レンジを2,000時間使用した電力相当

★東京都観光局

「交通手段別CO2排出量の計算シート」にて算出

交通手段別のCO2排出量			
3通りまでの方法を入力して比較できます。			
移動手段	第1の方法	第2の方法	第3の方法
鉄道	0 km	0 km	0 km
バス	0 km	0 km	0 km
自家用乗用車	21 km	0 km	0 km
徒歩または自転車	0 km	0 km	0 km
移動距離の合計	21 km	0 km	0 km
排出するCO2 (kg)	2.730 kg	0.000 kg	0.000 kg
排出するCO2 (kl)	1.390 kl	0.000 kl	0.000 kl



“サステナブル”なポイント

地産地消、米ストロー、ハラル対応のサステナブルランチは、
人気の“アフタヌーンティー”形式を取り入れ、満足度UP



- 優れた環境性能 & バリアフリーデザインのJPN TAXI(ジャパントクシー)を一部の行程で使用。
- バス利用部分はカーボンオフセットし、グリーン電力証書は参加者へ提示（見える化）。



環境学習 & 文化体験

- ① 廃棄されたマイクロプラスチックを利用した万華鏡制作
- ② 博多人形の絵付けを行い、博多伝統文化体験



ハラル対応、糸島産野菜、米ストローやリユース素材のカトラリー使用のサステナブルランチは見た目も華やかで、参加者によるサステナブル度・満足度共に最高評価。



★★★★★

本プランの「サステナブルツーリズム」該当要素

環境的に適正である	社会文化的に好ましい	経済的に成長できる
地域環境問題の削減	伝統、文化の保全	長期的利益の担保
地球環境の保全	地域コミュニティの幸福創出	地域の繁栄
景観保全	地域住民の参加	利益の公平な分配
資源の過剰利用回避	人権尊重と社会平等	観光客満足
環境汚染の回避	ユニバーサルデザイン	就業機会の創出
持続可能な消費と生産	雇用の質	

実施後の事業者意識と、今後の可能性

【「持続可能な観光」に関する自己評価】

総合スコア	項目別スコア
282.2 pt /400pt	A : 77.8pt B : 100.0pt C : 75.0pt D : 29.4pt

- A : 効果的で持続可能な経営管理の明示
- B : 地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化
- C : 文化遺産の魅力の最大化、悪影響の最小化
- D : 環境メリットの最大化、環境負荷の最小化

(※国際基準に基づくアンケート調査 自己評価結果より)

- 旅×エコフレンドリー意識の高い海外のお客様によるモニターにより、十分に普及効果を見出せたため、よりサステナブルなプランの造成意向がアップ。
- 移動によるCO2排出については、カーボンオフセットもうまく活用した幅広いサステナブルツーリズムを展開する必要性を実感。
- 宿泊施設と共にさらに一歩進んだ、ハラル・ビーガン等対応メニューの開発・提供により、ランチメニューの持続可能な商品化。



楽しさ優先に、海洋汚染や水産物の資源枯渇の問題に触れ、食の伝統体験も



プランテーマ ・ 概要

志賀島での体験（食事・遊び）を通して自然を感じ、サステナブルについて考える

船上から福岡の街並みを楽しむ、市内から30分の船旅（公共交通機関）を経て、志賀島海水浴場にて、ごみの回収量に応じて夕食BBQの肉が増量される特典付きビーチクリーンのほか、海水浴やサイクリング等CO2を排出しない方法によるアクティビティを楽しみつつ、徒歩及び自転車で志賀島の歴史や自然を学び体感する万葉歌碑や金印公園など市の文化財を巡った後は、地元漁師から譲り受けた通常では廃棄される地元の旬の未利用魚や野菜をふんだんに扱った料理を自然の風で涼をとりながら海の家で堪能し、屋台文化で締める旅。

実施期間	形態
2022年8月29日 (月)	日帰り
実施場所	
福岡市 志賀島(東区) /博多区	
参加者	
九州在住10~20代 6名： インド人専門学校生 2名 (女性) 日本人専門学校生・大学生 3名 (男性1、女性2) 日本人 社会人 1名 (女性)	
想定価格 (税込・大人1名あたり)	
@12,000円	

行程

〈約11時間の日帰りツアー〉

時間	移動手段	内容	場所
10:15	徒歩	市営渡船にて博多発	博多港
10:15~10:45	船	市営渡船にて志賀島着	志賀島港旅客船ターミナル
10:50~11:20	徒歩	ビーチ散策 & クリーン	志賀島海水浴場
11:30~12:30	徒歩	食の地産地消体験 (昼食)	海の家 丸良
12:30~17:00	自転車	サイクリング&ビーチ	志賀島および志賀島海水浴場
17:00~19:30	徒歩	食の地産地消体験 (夕食)	海の家 丸良
19:30~19:40	徒歩	市営渡船にて志賀島発	志賀島港旅客船ターミナル
19:40~20:10	船	市営渡船にて博多着	博多港
20:30~21:30	徒歩	食の伝統体験	屋台 純ちゃん



ビーチクリーンによるごみ拾得量
合計5,020g !!
⇒エアコンを約20
時間使用した
際のCO2排出
量に相当



CO2抑制に関する成果

徒歩・自転車以外は船利用で、4kg超のCO2を削減、エアコンLESSの食事施設で、CO2排出量‘ゼロ’

最低限の公共交通利用でCO2排出抑制



島へ渡る船以外は 徒歩+自転車 利用：

移動（船利用＝博多-志賀島往復 約40km）に自家用車（博多-志賀島往復+博多港～屋台＝約47km）を利用した場合に比べ*3、

⇒ 削減できたCO2量は 約4.4kg

※人が1日に吐き出すCO2量(約1kg)*4の約4日半分相当

エアコン代わりに自然の風活用でCO2排出ゼロ



エアコン不使用の海の家、屋台で食事（3回分）：

10畳用・消費電力567W*5のエアコンを6時間使用した際のCO2排出量(kg)＝消費電力量(0.567×6 kWh)×九州電力のCO2排出係数(約0.3)*6＝1.021kg

⇒ 削減できたCO2量は 約1.02kg

※500mlペットボトル約1,000本分の体積相当*7



自転車で志賀島の自然、歴史スポットを観光



風の吹き抜けを活用したNOエアコンの食事会場

“サステナブル”なポイント

参加者サステナブル度の高いサイクリング&ビーチクリーン + 学べる要素 が入れば、よりサステナブルツーリズムらしく



レンタカー移動を、より低炭素な定期便の船利用にしてCO2削減。

観光は島内の事業者からレンタルした自転車で。



プラスチックごみをメインとしたビーチクリーンは、回収したごみの量に応じて夕食をグレードアップするインセンティブを設け、楽しめるしくみに。



○地元漁師や農家から仕入れた食材や規格外の未利用魚等を活用した地産地消&フードロス対策の食事は、自然の風で涼をとり空調を使用しない海の家や屋台など、場所を工夫。

○福岡の食の伝統を受け継ぐ屋台を体験。居合わせた他の客との交流も。



★★★★★

本プランの「サステナブルツーリズム」該当要素

環境的に適正である	社会文化的に好ましい	経済的に成長できる
地域環境問題の削減	伝統、文化の保全	長期的利益の担保
地球環境の保全	地域コミュニティの幸福創出	地域の繁栄
景観保全	地域住民の参加	利益の公平な分配
資源の過剰利用回避	人権尊重と社会平等	観光客満足
環境汚染の回避	ユニバーサルデザイン	就業機会の創出
持続可能な消費と生産	雇用の質	

実施後の事業者意識と、今後の可能性

【「持続可能な観光」に関する自己評価】

総合スコア	項目別スコア
224.2 pt /400pt	A：該当なし B：87.5pt C：66.7pt D：70.0pt

A：効果的で持続可能な経営管理の明示
B：地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化
C：文化遺産の魅力の最大化、悪影響の最小化
D：環境メリットの最大化、環境負荷の最小化

(※国際基準に基づくアンケート調査 自己評価結果より)

○年代・世代、性別、所得等の属性や趣味嗜好(興味・体力)の違いに合わせたツアー造成の必要性を実感。価格とコンテンツの「質」「量」のバランスの見直しや、通年コンテンツ・新たな施設の開拓等。

○学びについては、参加しやすさ・わかりやすさ・ゲーム性・押し付けとまらない等「楽しさ」視点が重要であるとともに、その背景にあるサステナブルツーリズムとしての意義づけの必要性を確認。

○「サステナブルツアーとは何か」、呼称含め告知・理解普及の啓発の必要性を実感。



里山保全で、「地球温暖化」「生物多様性の損失」2大地球環境問題解決に貢献



プランテマ ・概要

福岡市の農や自然に触れ合う里山サステナブルキャンプ

約12ヘクタールの広大な敷地を有する、福岡市で唯一の大規模里山公園「かなたけの里公園」（自社で運営）を拠点として、農や森の恵みに触れ合い、里山ならではの食やアクティビティを味わう家族向けのモデルツアー。

天神・博多から車で約30分という“都心直結の里山”で農体験や環境保全の活動を取り込み、楽しみや学びの機会を創出したサステナブルなキャンプを実施。わざわざ車で遠方に行かなくてもキャンプができるモデルツアーを造成することでマイクロツーリズム（自宅からおよそ1時間圏内の地元や近隣への近距離旅行）としての環境配慮を行う。
※本取組は、地域にとって有用な情報を取材・発信するWeb新聞「天神経済新聞」に掲載された。（巻末の添付資料参照）

実施期間	形態
2022年10月1日(土)～2日(日)	1泊2日
実施場所	
福岡市 西区	
参加者	
小・中学生の子どもがいる30～40代の親と子6組17名： 大人9名（男性6名、女性3名） 子ども8名（男性2名、女性6名）	
想定価格（税込）	
・参加基本料金（サイト料金等） 8,000円/組 ・参加費（ワークショップ料金） 大人2,000円/人 子ども（小学生以上） 1,000円/人	

行程

〈DAY1〉

10:00	開場 ※13:00までに、各自テント設営や昼食を済ませてください。
13:00	開会・オリエンテーション 主旨説明や「サステナブル」な考え方についてレクチャー
13:30	里のものづくり体験 森の木材資源を使い、自分だけのスプーン・フォークを制作
14:30	サツマイモ収穫体験 自ら収穫し、夕食や朝ごはんで地産地消を味わう
15:00	— 自由時間・各自夕食 — 参加自由 ※各キャンプサイト見学&意見交換会 with snow peak
19:00	里山ナイトウォーク 夜の生きものや星空など、夜の里山の魅力を歩いて楽しむ
20:00	焚き火交流会 参加自由 焚き火を囲んで参加者同士の交流を深める 対話を通じてサステナブルな学びを深める
22:00	— 消灯・サイレントタイム —

〈DAY2〉

6:00	ラジオ体操 参加自由 朝日を浴びながら、健康的な一日を迎える
7:00	— 各自朝食・片付け —
9:00	里山保全活動 里山保全のための竹林の手入れや、CO2削減の取組の一環として緑化活動・苗植え体験、芝張体験を行う
11:00	クロージング 参加者同士での意見交換やアンケート記入など、1泊2日の体験の振り返りを行う
12:00	— 片付け・終了 —
13:00	張芝ワークショップ 参加自由 ※イベント終了後に、張芝ワークショップを予定



CO2抑制に関する成果

継続的な植樹活動で、1年で呼吸78日分のCO2を吸収、都市圏からの近距離地元キャンプで、CO2を削減

植樹活動でCO2を吸収



植樹活動を継続的・定期的実施（今回は試行的に3本）：
 1年生樹木 1ha 1,000本想定で1本あたり2.6kg/年のCO2吸収効果 ★林野庁「森林づくりによるCO2吸収量計算シート」より
 1本/人(家族) × 15人(組) 参加の植樹活動を年2回実施
 ⇒ 2.6kg/年 × 15人(組) × 2(回)
 ⇒⇒ 1年目に期待できるCO2吸収量は、**78kg /年**
 ※人が1日に吐き出すCO2量(約1kg)*8の約78日分相当

マイクロツーリズム（近距離旅行）でCO2削減



遠出しなくてもできる地元キャンプで移動距離短縮：
 将来的には、市内・近圏対象の「地元で手ぶらキャンプ」を実現
 ⇒ 福岡市街(天神)を出発地とした場合の、かなたけ（往復30km）と福岡近辺のキャンプ場（同60km）を比較
 計算式：距離[km] × 自家用車で1人を1km運ぶ際のCO2排出量 130[g/人km]*9で算出
 ⇒⇒ 福岡都市圏から最寄りの人気キャンプ場より **-3.9kg**

★林野庁「森林づくりによるCO2吸収量計算シート」にて算出

民間企業の活動による二酸化炭素吸収・固定量の「見える化」実証事業
 森林づくりによる二酸化炭素吸収量・簡易な「見える化」計算シート

登録・変更・更新 内容表示

事業体名テーブル

事業体名	株式会社エヌエフ環境設計研究所
プロジェクト名称	福岡市の近距離 観光地帯活動
担当者名	池水 敏
連絡先	
作成年月日	2022年11月8日

区分名登録テーブル

区分名	森林整備の種類、団地名等の整備対象区分の登録
1	かなたけの里公園 植樹
2	かなたけの里公園 植樹
3	かなたけの里公園 植樹
4	かなたけの里公園 植樹
5	かなたけの里公園 植樹
6	かなたけの里公園 植樹

森林整備の種類や団地名等をあらかじめ登録しておくことで合計計算表にこの区分の合計値を出力することができます。また、明細表の出力結果を編集するときに便利になります。最初の登録、変更、修正、再登録等は上にあるボタンを押して下さい。登録しておく、下記の入力データシート「森林整備の区分」の欄をダブルクリックすると表示されますので選択することができます。

入力エリアのクリア データ入力テーブル

番号	森林整備の種類等の区分	森林の野面積	林道等野面積の区分	新植の樹種	樹齢	面積 ha	ha当り立木本数	積算 m	平均直径 cm
1	かなたけの里公園 植樹	植樹地帯	第2駐車場	その他樹種	2	1.0	1,000	3.0	5.0
2	かなたけの里公園 植樹	植樹地帯	第2駐車場	その他樹種	2	1.0	1,000	5.0	10.0
3	かなたけの里公園 植樹	植樹地帯	第2駐車場	その他樹種	3	1.0	1,000	8.0	15.0
4	かなたけの里公園 植樹	植樹地帯	第2駐車場	その他樹種	4	1.0	1,000	10.0	20.0
5	かなたけの里公園 植樹	植樹地帯	第2駐車場	その他樹種	5	1.0	1,000	12.0	25.0
6	かなたけの里公園 植樹	植樹地帯	第2駐車場	その他樹種	6	1.0	1,000	15.0	30.0



“サステナブル”なポイント

わかりにくいCO2削減効果を、紙芝居式インタープリテーション＝“見える化”で、子どもへの理解も促進



自家用車利用も、福岡市街から15km(30分)のマイクロツーリズムの実践で、距離を短縮。



- ① 植樹やCO2吸収量が減少する高齢木を適切に間引く等の里山保全活動
- ② 自然素材を活かしたものづくり体験
 ⇒これらが「なぜどのようにCO2削減につながるのか」イラスト付きでインタープリテーション(解説)を実施し“見える化”



里山で収穫した野菜・米で地産地消、他の食料は参加者持参と麓のJAでの購入で、食材調達の輸送距離ゼロ(CO2排出ゼロ)を実現。



キャンプ泊で自然共生&環境負荷削減。



★★★★★

本プランの「サステナブルツーリズム」該当要素

環境的に適正である	社会文化的に好ましい	経済的に成長できる
地域環境問題の削減	伝統、文化の保全	長期的利益の担保
地球環境の保全	地域コミュニティの幸福創出	地域の繁栄
景観保全	地域住民の参加	利益の公平な分配
資源の過剰利用回避	人権尊重と社会平等	観光客満足
環境汚染の回避	ユニバーサルデザイン	就業機会の創出
持続可能な消費と生産	雇用の質	

実施後の事業者意識と、今後の可能性

【「持続可能な観光」に関する自己評価】

総合スコア	項目別スコア
273.9 pt /400pt	A : 90.0pt B : 100.0pt C : 該当なし D : 83.9pt

- A : 効果的で持続可能な経営管理の明示
- B : 地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化
- C : 文化遺産の魅力の最大化、悪影響の最小化
- D : 環境ミットの最大化、環境負荷の最小化

(※国際基準に基づくアンケート調査 自己評価結果より)

- 参加者の一般ファミリー層は環境問題に関する取組に関心があり、今後、キャンパーへのプラン展開の可能性を強く感じた。
- 一方で、メインターゲットをファミリー向けキャンプとすると、自家用車利用が多くなるため、移動によるCO2排出の抑制が難しい。
- 参加者にとっては、自然の中で自由に過ごしたいという本来の目的もあるため、アクティビティの数や、サステナブルな取組内容については今後、再検討が必要。



サステナブルツーリズムに重要な「低炭素」「循環型」「自然共生」を包括



プランテーマ ・ 概要

環境に優しい旅人になろう！ サイクリングでサステナブルなアクティビティを楽しむ

電動サイクルに乗って、地元サイクルガイドと共に景観を楽しみながらのんびりと散歩をするように、糸島半島の東側、美しい海岸線やフォトスポットがあふれ数多くの史跡や大自然が織りなす北崎地区を巡る。

途中、循環農法*（禪農法）で堆肥をつくり土を健全に保つ農業に取り組む生産者の畑での収穫体験、畑で獲れた野菜を車で行けないキャンプ場 唐泊（からどまり）ヴィレッジで美味しくいただき、ビーチクリーンをするサステナブル体験など五感で感じるアドベンチャー体験を楽しめるツアー。

レンタサイクル費、ガイド費、体験費、食事代、飲み物代、ウォーターボトル全て含まれるオールインクルーシブプランで安心楽々ストレスフリーなツアー。

* 化学肥料や農薬に頼らず、本来なら廃棄する物を肥料として栽培した作物を人の食料や家畜の飼料にしていく…という、資源を循環させる農法

実施期間	形態
2022年11月14日 (月)	日帰り
実施場所	
西区 (糸島半島北崎地区)	
参加者	
10名 (ガイド2名含む) : 一般参加の10代&30代母子、60代夫婦、50代女性 マスコミ関係、旅行代理店 3名 (男性2名、女性1名)	
想定価格 (大人1名あたり)	
@15,000円 (ガイド、レンタサイクル、昼食、土産等含む)	

行程 (約7時間の日帰りツアー)

9:00 集合 JR九大学研都市駅前 *本ツアーの参加には公共の交通機関をご利用下さい。 *集合場所までの交通費、解散後の交通費は含まれません。	ガイドと合流 出発前の案内・自転車操作方法 安全確認 (約1時間) 北崎地区
出発 e-BIKEポタリング 今津中田コスモス広場	e-BIKEポタリング 地元北崎未来を創る会の生産者が取り組む循環農法(禪農法)の畑でファムニック野菜の収穫体験
e-BIKEポタリング 桜井神社	12:30 (約3時間) 唐泊VILLAGE ◎自然を活かした車では行けないキャンプ場「唐泊ヴィレッジ」で ピザ作り体験 ◎九州大学うみつなぎ (ビーチクリーン、ビーチコーミング) 活動 ◎自然の中でのピラテス体験
15:30 唐泊VILLAGE	16:00 糸島茶房前 解散 *二見ヶ浦でサンセット
17:01 月と太陽糸島茶房バス停	*帰りのバスの案内 天神・博多 直行バス ウエストコーストライナー



ピザ窯でのピザ作り体験 @唐泊ヴィレッジ



※ポタリング…目的地を特に定めことなくゆっくり気楽にサイクリングすること
※ファムニック…farm + picnicの造語

CO2抑制に関する成果

車の代わりにe-Bike利用で、3kgのCO2を抑制、コンポストによる循環農法で、年間1000t超のCO2を削減

e-Bikeの利用でCO2排出抑制



ドライブで人気のコースをサイクリング ※CO2排出量0kg :
 走行距離23kmを自家用車で走行した場合に比べ、
 ⇒ 抑制できたCO2排出量は 2.99kg
 ※エアコンを12時間使用した際のCO2排出量に相当*10



e-Bikeでのサイクリング

廃棄野菜の堆肥化(コンポスト)でCO2大幅削減



化学肥料や農薬を使用しない独自の「禅農法」を体験 :
 廃棄野菜や北崎地区で収集した茶ガラ等をコンポスト(堆肥化)し畑に使用することで、年間約650tの生ごみを削減
 生ごみ1tを処理する際に排出されるCO2量*11は、
 ⇒ トラックによる収集・運搬、焼却処理 = 約2,051kg
 ⇒ コンポストで畑に使用 = 約18kg
 ⇒⇒ その差、1tあたり2,033kg × 年間650tなので…
 ⇒⇒⇒ 削減できるCO2排出量は、年間1,321t
 ※福岡市全体のCO2排出量の約15日分相当*12



循環農法(禅農法)による収穫体験



循環農法のインタープリテーション

“サステナブル”なポイント

「低CO2排出移動 + 循環型農業」で地域の自然環境にも貢献できる、欧州系インバウンドに好まれそうなコンテンツ



全行程をe-Bike + 集合地・解散地/解散時間を公共の交通機関の接続に合わせて、参加者が脱・車できるよう配慮し、低炭素な移動を実現。



- ①地元の住職考案の【禅農法】(循環農法)で、安心・安全な土作りから行う野菜を収穫
- ②キャンプ場に隣接する浜でビーチクリーン、自然の中でのピラテスなど旅行本来の楽しみ、自然共生による“非日常”体験も



自分で収穫した野菜 & 可能な限り地元産の食材を使い、ピザ窯でのピザ作り体験 & 食事。



★★★★★

本プランの「サステナブルツーリズム」該当要素

環境的に適正である	社会文化的に好ましい	経済的に成長できる
地域環境問題の削減	伝統、文化の保全	長期的利益の担保
地球環境の保全	地域コミュニティの幸福創出	地域の繁栄
景観保全	地域住民の参加	利益の公平な分配
資源の過剰利用回避	人権尊重と社会平等	観光客満足
環境汚染の回避	ユニバーサルデザイン	就業機会の創出
持続可能な消費と生産	雇用の質	

実施後の事業者意識と、今後の可能性

【「持続可能な観光」に関する自己評価】

総合スコア	項目別スコア
261.3 pt /400pt	A : 72.2pt
	B : 80.0pt
	C : 75.0pt
	D : 34.1pt

- A : 効果的で持続可能な経営管理の明示
- B : 地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化
- C : 文化遺産の魅力の最大化、悪影響の最小化
- D : 環境メリットの最大化、環境負荷の最小化

(※国際基準に基づくアンケート調査 自己評価結果より)

○サステナブルやCO2排出抑制を強調することで本来の観光の楽しさが失われないよう、体験活動を楽しむことを通じて自然にサステナブルにつながる工夫が必要。持続可能性と参加者満足の両立を考慮。

○オールインクルーシブ（現地払いが一切発生しない）であること含め1万5千円の価格設定が妥当と検証されたため、高付加価値（サステナブル要素）を鮮明にしていくことで商品化が可能。

○今後の自走化にあたっては、ターゲットを明確化し（個人、外国人アドベンチャーツーリズム層）、唐泊ヴィレッジ宿泊型をプラスした上で、当社が販売窓口となっていく。



観光業の連携効果で地域事業者を 応援する、サステナブルツーリズムの理想形



プランテーマ ・ 概要

人にも地球にも嬉しい「サステナブルな旅」

フードロス対策や100%再生エネルギー電力の活用などに取り組む環境配慮型ホテルを起点に、EV (Electric Vehicle) バスを使って福岡市内を周遊し、循環型栽培による野菜の収穫・食事、瞑想・座禅といった体験を通じながら、福岡市内でも先進的に環境配慮の取組みを行う方々や伝統を守り続ける方に出会える機会を創出するとともに、“サステナブル”を生活に取り入れるヒントを感じられるツアーを提案。

旅を終えてからの暮らしが、少しでも人と地球を豊かにしていく行動につながっていくような、人にも地球にも嬉しい旅のあり方を提案することを目的としている。

実施期間	形態
2022年11月14日(月)～15日(火)	1泊2日
実施場所	
福岡市 博多区/ 東区	
参加者	
5組6名（男性2名、女性4名）： 小学生起業家（母子）、社会活動家（男性1名）、文化体験観光案内職、環境配慮の取組実践者（メディア関係、インフルエンサー） いずれも女性各1名ずつ	
想定価格（税込・大人1名あたり）	
@45,000円	

行程

〈DAY1〉

12:00	【ホテル】 屋上菜園とフードロスについて、ホテルのコンセプトを学び、屋上菜園で収穫体験 フードロス、自然エネルギー、コンポスト、その他の取り組み — 移動 30分 —
13:00	【ランチ】 リセル(Re:Cell)キッチン（ヴィーガン対応レストラン） 有機栽培の野菜、無農薬米、無添加・無化学の調味料のミートフリーなランチ — 移動 30分 —
14:30	【アイランドシティ】 NPO法人循環生活研究所の農場を訪問 循環野菜を実際に収穫、生ごみ堆肥とコンポストの紹介、苗植え付け体験 — 移動 90分 — ※糸島半島を経由しながら移動
17:00	【西区】 マテリアルマーケット（廃材のセレクトショップ） 工場から出た廃材、端材を使ったワークショップ — 移動 50分 —
18:50	【ホテル】 滞在（自由に福岡市内観光） 夕食に博多屋台や博多旧市街のお店を推奨

〈DAY2〉

8:00	【博多旧市街地】 神社仏閣で文化体験 瞑想や座禅体験（石城山 妙楽寺）
9:30	【ホテル】 前日に参加者が収穫したサラダ野菜 + 通常の朝食 循環野菜、地産地消



廃材のセレクトショップでのインタープリテーション(解説)の様子
～ 廃材・モノの循環を学ぶ

CO2抑制に関する成果

全行程EVコミュニティバス移動で、CO2排出量‘ゼロ’
“捨てないステイ”を実践するホテル滞在により、CO2を削減

電気自動車バスの利用でCO2排出ゼロ



全ての移動にElectric Vehicleバスを利用：

移動距離80kmを貸切バス/自家用車で移動した場合と比較
⇒ EVバスがCO2排出量ゼロのため、削減できたCO2量は
貸切バスの場合 4.56kg、自家用車の場合 10.4kg *13
※貸切バス/自家用車 利用時でそれぞれ、1人当たりのCO2
排出量(年間約1,840kg)*14の約1日弱分/約2日分に相当



移動は全て EV Mortsors Japan のEVコミュニティバスを利用

積極フードロス対策のホテル利用でCO2排出抑制



コンポストした朝食の残滓を屋上菜園に活用：

ホテルの朝食から発生するフードロス1日500g、年間約182.5kg
生ごみ1tを処理する際に排出されるCO2量*15は、
⇒トラックによる収集・運搬、焼却処理 = 約2,051kg
⇒コンポスト（堆肥化）で畑に使用 = 約18kg
⇒⇒ その差、1tあたり2,033kg × 年間0.183tなので…
⇒⇒⇒ 抑制できるCO2排出量は、年間 約372kg
※自家用車で2,860km(福岡-北海道往復程度*16)走行時のCO2排出量に相当*17



フードロス対策ホテルの屋上菜園での収穫体験

“サステナブル”なポイント

「環境配慮×快適性」 相乗効果の可能性を示し、
都市型生活の中で実践しやすいサステナブルを実現



- 再エネ100%の電源にまでこだわったEVバスレンタル + 集合地までは公共交通機関を推奨。
- 参加者の集合地までの移動によるCO2排出は、福岡市営林のプランを活用しカーボンオフセット。



- ①都市型循環農園での収穫体験&フードロス学習、廃材セレクトショップでのモノの循環についての学び
- ②博多旧市街の神社仏閣での座禅や歴史体験など文化のサステナビリティを体感



環境負荷の低いミートフリーランチや、循環野菜ほか地産地消かつ健康にも配慮した朝食セット。



全館自然エネルギー由来の電力使用、消費電力を抑えた輻射式冷暖房、天然素材を多用した内装…等環境配慮型かつ快適なホテルへの宿泊。



★★★★★

本プランの「サステナブルツーリズム」該当要素

環境的に適正である	社会文化的に好ましい	経済的に成長できる
地域環境問題の削減	伝統、文化の保全	長期的利益の担保
地球環境の保全	地域コミュニティの幸福創出	地域の繁栄
景観保全	地域住民の参加	利益の公平な分配
資源の過剰利用回避	人権尊重と社会平等	観光客満足
環境汚染の回避	ユニバーサルデザイン	就業機会の創出
持続可能な消費と生産	雇用の質	

実施後の事業者意識と、今後の可能性

【「持続可能な観光」に関する自己評価】

総合スコア	項目別スコア
355.0 pt /400pt	A : 80.0pt B : 100.0pt C : 100.0pt D : 75.0pt

A : 効果的で持続可能な経営管理の明示
B : 地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化
C : 文化遺産の魅力の最大化、悪影響の最小化
D : 環境メトリックの最大化、環境負荷の最小化

(※国際基準に基づくアンケート調査 自己評価結果より)

○コンテンツ・体験は汎用性が高く、今後のツアー事業化に問題なく展開できることが検証できた。

○収穫体験や廃材ショップ、座禅体験等参加者満足度の高かったポイントの精査及び、旅行者が参加しやすく、かつ連携する受入業者に負担のない持続可能な旅行代金の検討が必要と考える。

○課題は、サステナブル=素朴、面白くない、安っぽいというイメージを持つ参加者がいること。また、充電スポットの確保や台数が少ないことによるレンタル価格の高騰などEVバスの利用。交通手段の設計が今後の検討課題。



質の高い環境教育で、体験型観光に 終始しない真のエコツーリズムを実現



プランテーマ ・概要

社会貢献プログラム ～“海と森”のSDGs体験～

海辺のアクティビティを中心とした体験プログラムと、ゲーム形式の環境教育プログラムを掛け合わせたプラン。
「日本の白砂青松100選」に選ばれている玄界灘海岸や博多湾に囲まれた約350ヘクタールの広大な緑地を有する国営の海の中道海浜公園の自然資源を活かし、ビーチクリーンやマイクロプラスチック・ハンター等持続可能な社会づくりに向けたアクション方法を体験。

体験後は、「自然や環境のために行動できる人」を育成する環境教育プログラムをゲーム形式で行い、様々なプログラムを楽しみながら、アクティブラーニングの手法で学びを深める「企業向け研修プログラム」。

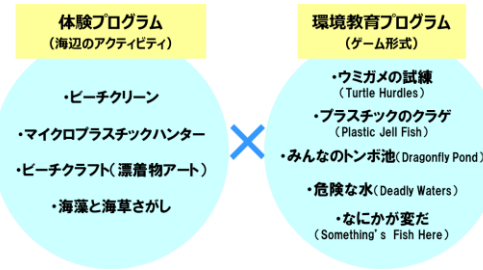
※今回のツアーでは、「森のアクティビティ」は未実施

実施期間	形態
2022年7月13日（水）	日帰り
実施場所	
東区（国営海の中道海浜公園）	
参加者	
31名 ※企業研修として実施	
想定価格（税込・大人1名あたり）	
@5,000円	

プログラム実践例

時間	プログラムタイトル	概要
15分	始まりの挨拶	プログラムの前段として、公園の立地や博多湾のつながり、博多湾の生態系の豊かさなどをスライドで紹介
10分	環境保全活動 「博多湾での海岸清掃」	博多湾（ホテル ルイガンズ前）の砂浜にて、海岸清掃を実施
10分	環境保全活動 「マイクロプラスチックハンター」	マイクロプラスチック拾いを体験 参加者にガラス瓶とピンセットを配布し、ガラス瓶にマイクロプラスチックを可能な限り収集
40分	環境学習プログラム 「プラスチックの海」	環境保全活動終了後、マイクロプラスチックをテーマに、環境学習プログラム（グループワーク）を屋内にて実施 ⇒マイクロプラスチックの分類や並び替え等を行い、各グループで話し合った内容を発表。気づきや学びを参加者全体で共有。

例)「海辺ver.」プログラム



CO2抑制に関する成果

移動は徒歩のみで、CO2排出量 '完全ゼロ'

“徒歩圏内で完結”により、CO2排出完全ゼロ



徒歩 + オプションで電動モビリティ体験：

宿泊施設からプログラム実施場所（玄海灘海浜部）の移動は、全て徒歩約15分圏内で、移動によるCO2排出ゼロを実現。参加団体のニーズに応じ、電動トゥクトゥク、電動キックボード、セグウェイ等の電動モビリティ体験を別途オプションとして用意



マイクロプラスチック・ハンター



ビーチクリーン

“サステナブル”なポイント

CO2排出抑制を第一目的とはしない、体験×学習の組み合わせによる環境教育プログラムの好例

本プランの「サステナブルツーリズム」該当要素

環境的に適正である	社会文化的に好ましい	経済的に成長できる
地域環境問題の削減	伝統、文化の保全	長期的利益の担保
その他	地域コミュニティの幸福創出	地域の繁栄
景観保全	地域住民の参加	利益の公平な分配
資源の過剰利用回避	人権尊重と社会平等	観光客満足
環境汚染の回避	ユニバーサルデザイン	就業機会の創出
持続可能な消費と生産	雇用の質	



移動（徒歩or電動モビリティ）でCO2抑制

- ツアー自体がSDGsのゴール14 & 15につながるSDGsの「ゴール14:海の豊かさを・15:陸の豊かさも守ろう」の体験を通じ、“海と陸のつながり”を実感するとともに、環境配慮への具体的な行動につなげる。 ※今回、陸のアクティビティは未実施
- 自分事として気づき学べる、高品質&楽しく身につくプログラム



★★★★★



実施後の事業者意識と、今後の可能性

【参加者の声】

プラスチックごみの多さに驚いた



自分でも気が付かない内に、自らの些細な行動が海洋ゴミ問題につながっている可能性がある

- 参加者は、想像以上に多くのごみが足元に広がっていることを体感することで、多くの気づきや学びを持ち帰ることにつながる。
- 「体験プログラム」と「環境学習プログラム」の組み合わせの実践&蓄積が今後の課題。

その他の取組

環境教育プログラム「森づくりver.」

体験プログラム
(森のアクティビティ)

- ・苗木救出作戦 (草刈り体験)
- ・森のお世話 (ソル切り・枝打ち体験)
- ・森の未来選択 (木を切る体験)
- ・バイオネストづくり (資源循環体験)

環境教育プログラム
(ゲーム形式)

- ・森の遷移 (Forest Succession)
- ・誰がここに住んでいるの (Who Lives Here?)
- ・はじめての生物多様性 (First biodiversity)
- ・大親友 (Good Buddies)



森のアクティビティ

苗木救出作戦 (草刈り体験)



森の未来選択 (木を切る体験)



数十年スパンの森づくりでCO2を吸収



毎年2千本を植樹し、地域で「ゼロからの森づくり」：

2010年より地域住民との協働で、毎年約2,000本の苗木の植樹を続け50年かけて育成中の環境共生の森（愛称：みらいの森）の植樹地約2.25ha 4.5万本のCO2吸収量を算出

⇒スダジイ 齢級3、樹高6m、平均直径45cmとした場合*18

⇒⇒ CO2吸収量は、7.3t /年

※日本人1人当たりのCO2排出量の約4年分に相当*19

地元の小学生や市民ボランティアの協力による森づくり(植樹)活動



2. 福岡市観光関連事業者の取組事例

(4) 実施後アンケート調査結果

本アンケート調査は、「サステナブルツーリズム」に資する取組みについて、市内観光関連事業者の意識の浸透度合いを確認するとともに、**持続可能な観光に関する「国際基準」を知ること自体を含め、「サステナブルツーリズム」への正しい理解及び取組意向促進を図る**ことを目的に行った。

アンケートは、世界持続可能な観光協議会（**GSTC = Global Sustainable Tourism Council**）が策定した、宿泊施設やツアー会社等観光産業向けの国際基準「**GSTC-I*（GSTC Criteria for Tourism Industry）**」から、今回の取組に関係の深い基準を抜粋・アレンジ。

A. 持続可能な経営管理

B. 社会経済のサステナビリティ

C. 文化的サステナビリティ

D. 環境のサステナビリティ

の4分野58の設問に対して、各事業者が自己評価・分析し、回答する形式で行った。

※本アンケート調査はサステナブルツーリズムに関心のあるあらゆる事業者に取り組みやすいよう作成しているので、自身の現在地や取組に向けての課題等を確認するツールとしてご活用いただきたい。

※本アンケート調査は、添付資料としてP36以降に掲載

① 調査概要

- 調査対象：福岡市「サステナブルツーリズム推進事業」採択事業者5社
- 調査時期：2023年1月25日（水）～2月1日（水）
- 調査方法：メールによるアンケート（Web上のフォームに入力）
- 回答方法：「ある/はい」（100点）、「今後準備する予定」（50点）、「ない/いいえ」（0点）、「自社事業に該当しない」からの選択形式（調査票は巻末の添付資料参照）
- 集計方法：単純平均（4分野58問・各分野100点満点、総合スコア400点満点）

② 調査結果

今回、モデルツアーを実施した事業者の自己評価の平均は下記の通り。

全体平均が300ポイント以上という高い自己評価は、分野Bの「地域の社会的・経済的サステナビリティ」が寄与。本事業では特に、CO2削減・抑制に焦点を当てプラン造成されたことを考えると、分野Dの「環境のサステナビリティ」が4分野中最も平均得点が低かったことは、より厳しく正直に自己採点をしているものと思われる。

2. 福岡市観光関連事業者の取組事例

(4) 実施後アンケート調査結果

実施全事業者平均の自己評価結果

311.2pt /400pt

A. 効果的で持続可能な経営管理の明示		80.0pt	C. 文化遺産の魅力の最大化、悪影響の最小化		79.2pt
A1	持続可能な経営管理		C2	文化遺産の保護	
A3	報告と伝達		C3	地域文化や遺産の提示	
A4	従業員の参画		D. 環境メリットの最大化、環境負荷の最小化		58.5pt
A5	顧客の体験		D1.1	環境に配慮した購入	
A6	正確な広告宣伝		D1.2	効果的購入	
A7.4	すべての人のためのアクセス		D1.3	省エネルギー	
A9	情報および解説		D1.4	節水	
B. 地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化		93.5pt	D2.1	温室効果ガスの排出	
B1	地域支援		D2.2	交通・輸送手段	
B2	地域雇用		D2.4	廃棄物	
B3	地元での購入		D2.6	汚染の最小化	
B9	地域住民の生活		D3.1	生物多様性の保全	
			D3.3	自然地域への訪問	

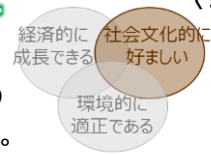
※A1、D1.3等は、観光産業向けの国際基準「GSTC-I」の各番号に準じており抜粋・アレンジしているため、番号が飛んでいる。

3. 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の先進事例

今回実施したモデルツアーで取組のなかった、「環境的サステナビリティ」以外の「社会文化的」及び「経済的」サステナビリティ要素を中心に取組んだ事例を取り上げた。

#1 バリアフリーツアー（大分県日田市）

視覚障害者が五感で楽しめる体験ツアー



〈SDGs〉関連するゴール



背景

フランス人観光コンサルタントで期間限定の市職員が、視覚障害のある友人と京都観光した経験を踏まえ、日田でもできないかと提案。

概要

- 視覚障害者が水郷の魅力を体験できるモニターツアー。2019年12月7日実施。
- 目の不自由な人でも五感で楽しめる観光の在り方を探ろうと企画。
- 市内外の障害者と介護者5人が参加し、滝の音や足湯の硫黄の香り、日田ジビエ料理などを楽しんだ。
- 移動は乗用車で行き、路面が整備された場所を訪れるなど安全面に配慮しながら、観光情報もより丁寧に案内。
- 市内天瀬町の桜滝では滝の近くに座り、水が流れ落ちる音を聞きながら黙想する時間を設けたほか、昼食は日田やきそばを店のカウンターで用意し、調理中の音とソースの香ばしい匂いなども味わえるようにした。キッチンスタジオでのユズの酢の物作り、地元産イノシ肉を使ったソーセージ作りなど、手ざわりや嗅覚で体験できる地元の素材も盛り込んでいる。
- 市は今後、今回のツアーを生かした事業を展開する予定。市商工労政課は「介護者、要介護者らにも日田の魅力を知ってもらえる取組を考えたい」と話している。

成果など

市は今後、今回のツアーを生かした事業を展開する予定。
市商工労政課は「介護者、要介護者らにも日田の魅力を知ってもらえる取組を考えたい」と話している。

3. 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の先進事例

#2 ユニバーサルデザイン（兵庫県神戸市・須磨海岸等）

車椅子のまま楽しめるビーチづくり



背景

須磨海岸は関西でも有数の人気のビーチであったが、元来のビーチでは、「車椅子では海を楽しめない」ということから、2017年、須磨を車椅子の方とご家族と一緒に海を楽しめるユニバーサルビーチにすることを目標として有志の仲間が立ち上がった。

概要

- 通常、車椅子で砂浜を通ろうとすると車輪が砂にはまってしまい、車椅子の方は、せっかく海に来たのに遠くから眺めることしかできない。こういった課題をクリアするため、オーストラリア等のビーチに敷かれたマットに着目。このマットが1本あるだけで、車椅子の方でも健常者と同じようにこれまで近づけなかった砂浜を進むことができ、家族と海を楽しむことができる。
- そこでまず、須磨のビーチにマットを導入することとしたが、日本で導入している海岸はまだなく、製造・販売しているメーカーもなかったため、自分たちで身の回りのモノを利用して作ろうと考え、代用品のアイデアを募り、実際に可能かどうか検証したが安全面に不安が残る結果となった。
- 安全面については妥協できないことから、ビーチマットを製造しているアメリカから輸入することに決定したものの、購入に必要な金額は130万円と高額。しかし、どうしても海を諦めている方の力になりたいとクラウドファンディングに挑戦した結果、167人から159万円の支援が集まったことから、2017年にビーチマットを日本で初めて須磨に導入することができた。
- 車椅子の方も介護者や家族の方と一緒に砂浜を通り波打ち際まで行くことができるようになり、遠くから眺めることしかできなかった海を、誰もがみんなで楽しむことができるようになった。加えて、マットで波打ち際まで行けるようになると、海に入りたくなる。そういった要望に応えるために、水陸両用車椅子であるヒポキャンブも導入することに。
- このほか須磨海岸では、身障者用駐車スペースや多目的トイレ、バリアフリーシャワー等も整備し、総合的に、障害者も健常者も一緒に同じことを楽しめるビーチづくりを行っている。



ビーチマット上を移動する利用者



ヒポキャンブにより海水浴を楽しむ利用者

成果など

- 「海では一緒に遊べない」と諦めていた車椅子の方がいる家族やベビーカーの子ども連れ、高齢者の訪問が増加。
- ビーチマットは設置・撤去に人手がかかるというデメリットには見えないことが、一夏に100人を超える市民ボランティアの方が集まり、「市民のみなんでユニバーサルビーチをつくっていく」ことができる風土が醸成されるというメリットに。
- 愛知県南知多町の海岸等でもビーチマットが導入され、同様の取組が行われている。

【参考URL】

須磨ユニバーサルビーチプロジェクト <https://sumauniversalbeach.com/>

3. 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の先進事例

#3 地域コミュニティの幸福創出/ 観光客満足 ((一社) CHIE-NO-WA)

京くみひもブレスレット販売による 相互理解促進と地域貢献



背景

毎年多数の旅行者が訪れている**京都市**では、一部の地域住民による旅行者への嫌悪感や、両者間でのトラブルの発生といった問題が生じている。そこで、2019年10月に地域の大学生により一般社団法人CHIE-NO-WAが設立され、交流の原点である敬意と誇りを地域住民と旅行者が互いに意識するための取組「千恵の遺産」を実施。

概要

- ゲストハウス、飲食店等において、地域住民や旅行者に対して互いの理解・尊重を促し、その敬意と誇りの証として、地元の伝統工芸品である正絹くみひもを使って作成したブレスレットを販売・展開。
- ブレスレットの売上については、原価等を除いた金額を地域貢献費として積み立て、街づくりのための施策としての活用を予定。具体的には、行政、地域住民、まちづくり協議会等にヒアリングを行った上で、ゴミ箱の設置、文化の紹介や導線掲示の看板の設置、災害時に備えた備品の購入等を行うことを検討。
- ゲストハウス、飲食店等での販売以外にも、企業向け・幼稚園小学校向けのワークショップの実施、イベント登壇・参加、ポスティングの実施による地域住民への直接的なアプローチも実施しているほか、今後は、専用の自動販売機の設置によるブレスレット販売も検討している。



成果 など

- 観光関連事業者から「このようなソフト面の取組が必要だと思っていた」「互いへの敬意は意識する必要がある」というコメントや、取組を知り理解いただいた人から「観光地で起こる問題に不快感を覚えなくなった」「よりよい京都のために千恵の遺産を通して貢献したい」というコメントがあった。
- 今後の課題としては、まだまだアプローチできている人数が少ないことが挙げられ、今後も引き続き一人でも多くの地域住民・旅行者と交流していく必要がある。

【参考URL】

一般社団法人CHIE-NO-WA
<http://chienois.com>

3. 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の先進事例

#4 地域コミュニティとの共生/ 観光客満足/ 地域の繁栄（岐阜県白川村）

地域住民とのふれあいによる 地域支援が観光商品になる 「カヤ刈り」イベントの実施



〈SDGs〉関連するゴール



概要

- 「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」と白川村、公益財団法人「日本ナショナルトラスト」が協働し、一般参加ができるイベントとして、2016年から毎年開催。
- 観光客に白川村の伝統文化である「カヤ刈り」への興味関心を持ってもらい、地元内外から作業に携わる人材を増やすことで、地元産カヤ材の自給率向上につなげることを目的としている。
- 参加する観光客は、地元のベテランから草刈り鎌の扱いや結びひもの掛け方など指導を受けながら一緒に汗を流す、村民と一緒にの昼食をはさむ1日作業。
- カヤ刈り後は村民有志で酒宴の席が設けられ、作業の労をねぎらう「直会（なおりい）」を開き、参加者（観光客）たちと親睦を深める。

成果 など

単なる観光にとどまらず、住民と一緒に白川村に伝わる伝統文化体験を通して、村を支え、守ろうとしてくれる支援者の輪の拡大に期待し、今後も実施していく予定。



カヤ刈りを楽しむ参加者

【参考URL】

飛騨日新聞 合掌造り家屋を村民の手で未来へつなぐ「茅刈り」
<https://hidanichi.com/kayakari2020/>

3. 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の先進事例

#5 地域住民の参加/ 地域の繁栄（北海道ニセコ町）

観光事業者による地域貢献の見える化



背景

- ニセコ町は、持続可能な観光への取組を進める中で、観光事業者による環境負荷の軽減等を目指しているが、観光事業者が地域経済や地域社会に貢献していることは、観光客や町民にはあまり知られていない。
- 観光客の増加は、混雑や環境悪化など、町民の生活にマイナスの影響を与えることも少なくなく、住民観光意識アンケート調査（2017年）によると、ニセコ観光圏を訪れる観光客を好意的に捉えている町民は約半数を占めるが、一方で好意的に捉えていない町民も1割を占める。
- 将来にわたって町民の理解と関与を確保するためには、町民に対し、観光の重要性や地域への貢献について丁寧に説明していくことが求められている。

概要

- 町民への理解を深めるための取組の一つとして、
 - ① アンケートにより、観光事業者による持続可能な観光に関する取組の現状の把握
 - ② ①のアンケート結果から、持続的な観光地域づくりについて町民にわかりやすく伝えるためのリーフレットを作成を実施。
- 作成したリーフレットは、子どもを含め、町民向けのセミナーやイベント等で配布し、町民全体の観光への理解を促進していくこととしている。（コロナ禍のため同イベントについて2020年度は未実施）

成果など

町民から観光への理解を得ることには、持続可能な観光地域づくりを推進する上で重要な「町民の地域に対する愛着や誇りの醸成」、「町民が主体的に観光地域づくりに参画できるような意識醸成」につながることが期待される。

【参考URL】

ニセコ町HP 観光庁「持続可能な観光に関する調査レポート」をリリース

<https://www.town.niseko.lg.jp/information/3220/?fbclid=IwAR2IH6mzRP-fqMG6DRf76XVGPTNO-vrAn64YZUnnVGnUVTIG7IITWMjLsk4>

3. 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の先進事例

#6 地域住民の参加/ 地域の繁栄（神奈川県三浦市・株式会社三浦観光バス）

観光バス事業者による 地域児童への移動図書館の提供



〈SDGs〉関連するゴール



概要

- 株式会社三浦観光バスは、図書館の少ない町の子どもたちに絵本を届けようと、葉山町の私設図書館と「え”ほんふれあいていりゅうじょ」を合同で運営。
- 月に1度、観光バスを読書スペースとして開放し、読み聞かせを行うなど子育て支援に寄与している。
- 事業者（本県では三浦観光バス）が地域貢献の意識を有してこそ・サステナビリティを意識してこそその取組であり、観光バスを活用しているという点で、子どもたち（やその親御さん）に観光バスに興味を持っていただくきっかけにもなる上、利用者からは観光バスについての質疑応答もなされ、自然と観光教育が実施されている。

成果 など

- さらに、地域住民の観光への理解度も高まるものと考えられる。

【参考URL】

“え”ほん ふれあいていりゅうじょ イベントホームページ
<https://ehon.localinfo.jp/>

3. 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の先進事例

#7 伝統、文化の保全/ 長期的利益の担保（京都市・仁和寺）

財源確保のため旧家屋を修繕し宿坊に



背景 世界遺産の仁和寺（京都市）では、主な収入源である拝観料が近年、減少の一途をたどっており、建造物などの修繕・維持に十分な財源が確保できていなかった。

- 概要**
- 境内の旧家屋を改築し、宿坊「松林庵」をオープン
 - 海外からの富裕層をターゲットに1泊100万円（税別）。1日1組限定で最大5人まで宿泊でき、食事などは別料金。
 - 宿泊者は、僧侶がガイドするプライベートツアーに参加したり、閉門後に仁和寺の「御殿」を貸切で利用したり、世界遺産・仁和寺を間近に日本文化が体験できる。希望すれば、生け花や雅楽の鑑賞なども楽しめる。
 - 「松林庵」は木造2階建てで延床面積は約160平方メートル。総工費約1億5,700万円をかけ、家屋の改築や庭園を整備。改築費のうち約8割が日本財団の「いろはにほんプロジェクト」*からの助成金でまかなわれている。

成果など 2018年春より受入開始し、2019年8月時点で、延べ9組48人が宿泊。

*「いろはにほんプロジェクト」

日本文化に興味をもつ外国人旅行者をターゲットに、非公開である寺院などの歴史的建造物に滞在しながら、他では経験できない限定的な文化プログラムを提供。日本文化の価値を発見・認識し、日本に対する理解と文化財に対する関心を、国内外ともに高めてもらうことを目的としている。

【参考URL】

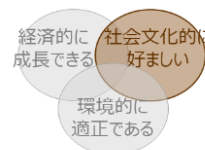
日本財団HP「いろはにほん」

<https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/iroha-nihon>

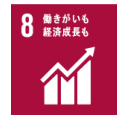
3. 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の先進事例

#8 雇用の質（公正な賃金）（アパホテル）

等級制度の導入で アルバイトの業務意欲向上へ



〈SDGs〉関連するゴール



概要

- 全国で649軒・10万576室を展開するアパホテル株式会社は、自社のアルバイトクルーに対して等級制度を導入し、クルーの業務意欲向上を図っている。
- 以前はアルバイトクルーへの明確な評価基準がなかったが、全国で統一した基準により採点する「スキルチェックシート」を採用。能力によって星1～5の5段階に等級を分けて評価を可視化し、「エースクルー」、「クルーリーダー」などの呼称も策定した。
- 時給においても、地域別・職種別に基準時給を設け、等級に応じて基準時給に、プラス昇級加算分の時給が賃金となるように設定（星の数に従って時給が上昇、基準時給に20～200円プラスした水準となっている）。入社時期にかかわらず同一事業所では基準時給を統一した。
- 等級はネームプレートにシールを貼付して外部から識別できるようにし、等級が上がるごとにシールが増える。

【アルバイトクルー等級制度】

呼称	等級	能力イメージ	待遇
フレッシュクルー	★	自社の商品とサービスを理解し、上席者・先輩のサポートで標準的なオペレーションを行える	当該事業の基準時給
エースクルー	★★	上記の標準的なオペレーションを努力で行える	+20円
クルーリーダー	★★★	標準的なオペレーションに加え、売上・客室稼働のコントロールや後輩の業務をサポートできる	+30円 (基準時給+50円)
クルートレーナー	★★★★	時間帯責任者として、売上・客室稼働のコントロールができる。周囲の模範となり得るオペレーションができ、後輩に業務指導ができる	+50円 (基準時給+100円)
クルーマネージャー	★★★★★	クルー全体を統制しながら上席者（支配人など）を的確にサポートし、部門責任者クラスの売上・客室稼働のコントロールを行う能力を有する	+100円 (基準時給+200円)

※本事例は、「ツーリズム」ではないが、GSTC（Global Sustainable Tourism Council：世界持続可能な観光協議会）による観光産業向けの国際基準GSTC-IのセクションB.地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化 に該当するため、参考までに取り上げている。

【参考URL】

アパグループ公式サイト

<https://www.apa.co.jp/>

4. サステナブルツーリズム造成チェックシート

【監修】東京女子大学 現代教養学部
国際社会学科教授 藤稿亜矢子 氏

- ◆サステナブルツーリズム造成の際、プランの内容が最低限「サステナブルツーリズム」の要件を満たしているかどうか確認するためのチェックシートです。
- ◆サステナブルツーリズムの実現にあたっては「環境」の側面が基盤となるため、本チェックシートは環境配慮を中心としたものになりますが、これらの項目をファーストステップとお考えください。
- ◆ここにある項目以外にも、配慮すべき事項は、観光コンテンツの特性によって変わってきます。
(例えば、自然地域での観光であれば、より生物多様性への細かい配慮が必要となり、文化的観光であれば文化の保全や継承の活性化が必要となるなど。)
- ◆より細かいサステナブルツーリズムの基準を知りたい場合は、世界共通の基準であるGSTC (Global Sustainable Tourism Council : 世界持続可能な観光協議会) による基準があります。

▼観光事業者向け基準 日本語版

https://www.gstcouncil.org/wp-content/uploads/GSTC-I-Criteria-Only-v3Dec2016_Japanese.pdf

▼観光地向け基準 日本語版

<https://www.gstcouncil.org/wp-content/uploads/GSTC-Destination-Criteria-v2.0-Japanese.pdf>

「低炭素型観光」の優先順位※が考慮されているか？

※「低炭素型観光」の優先順位

- ①エネルギー使用量の削減
- ②使用エネルギー源は再生可能エネルギー
- ③それでも排出してしまうCO2はカーボンオフセット)

参加者が実施場所に来るまでの過程におけるCO2排出は、配慮されているか？

(旅行中の全てのプロセスにおけるCO2排出をいかに最小限にするかが考慮されているか)

- 参加者に主要アクセスポイントからの、より低炭素な交通手段を提示する
- 参加者にカーボンオフセットの方法を提示する …など

〈交通〉ツアー中の移動におけるCO2排出は、配慮されているか？

ex. できるだけ徒歩、自転車などCO2を排出しない移動手段にする、電動モビリティ（電力は化石燃料由来でなくグリーン電力）やバイオ燃料車、てんぷら油で走るバス等を利用する、自家用車でなく公共交通機関を利用する …など

〈宿泊〉宿泊先は環境配慮型等サステナビリティに配慮した宿泊施設を選定しているか？

ex. ホテルで使用する電力は全て自然エネルギー、瓶での飲料水の提供、アメニティはできるだけ無し、プラスチックフリー、適切な廃水管理、消費電力を抑えた輻射式冷暖房、カーボンニュートラル素材の漆喰や天然の竹を使った内装材、食べ残しを堆肥化し屋上や裏庭菜園での栽培に活用した循環型施策、水や食料など様々な資源の過剰消費の抑制 …など

〈食事〉食材の調達方法や食事そのものがサステナビリティに配慮されているか？

ex. 輸送が極力少ない地産地消、環境負荷の少ない産品、フェアトレード製品、持続可能な製品の認証製品、伝統的な食品、地球環境の健全性のための無農薬、非化学肥料、有機食材、環境負荷の高い「肉」は地域の牧草で育った家畜の肉や放し飼いの地鶏などサステナブルなものか、バイクの廃止、食品ロス対策 …など

4. サステナブルツーリズム造成チェックシート

- ツアー内での体験・活動が、「なぜ/どのように/どのくらい CO2削減や環境保全につながるのか」といったインタープリテーション*を参加者に行っているか？

*インタープリテーションとは、サステナブルツーリズムの一形態であるエコツーリズムにおける環境教育的要素に必須なもので、活動や体験を通して環境保全を実感・共感するために、きちんとした「解説(interpretation)」を実施することを表す用語。口頭による現場での解説のほか展示や動画による事前解説、スマホなどでの情報提供（資源節約の観点から紙類の配布はできるだけ避ける）など様々な形がある。

- 廃棄物（特にプラスチックごみ）を削減・循環（4R*など）するよう考慮されているか？

*4R…Refuse(拒否する： unnecessaryなものは買わない・断る)、Reduce(減らす： できるだけごみを出さない、ものを大事に使う)、Reuse(再使用： 繰り返し使用する、人に譲る)、Recycle(再生利用： 捨てずに分別して再資源化) のことで、この順番で優先順位が高い。

- エネルギーや水、水産物、森林資源等の消費に関し、省資源・“循環型”が配慮されているか？

- 生物多様性*に悪影響を与えうる様々な活動を認識し、それらの削減に配慮しているか？

*生物多様性とは、多様な生態系（自然環境）に多様な生き物とその遺伝子が存在している状態。

ex. 水、食、みやげ物等、あらゆる場面の資源利用で自然資源の過剰消費を行わない、絶滅危惧種への留意、アウトドア、レクリエーションなどにおいて自然環境に負荷を与えない、またそのためのモニタリング、光害への対応、自然地域に入る際の人数管理やルール周知、自然環境を壊しているインフラを利用しない …など

- カーボンオフセットを行う場合、当該ツアー企画とのストーリー性があるか？

ex. 実施都道府県や市町村に関連するオフセットプラン

ex. 実施都市と姉妹都市などの海外の地域があれば、そこでのオフセットプラン

ex. ツアー内容に関連する（ビーチクリーンであれば海に関連する）オフセットプラン …など

- 2大地球環境問題である「温暖化による気候変動」と「生物多様性の損失」、およびその双方に関連する「大量消費・大量廃棄」といった課題の解決に貢献する施策を積極的に取り入れているか？

ex. 気候変動の緩和と生物多様性の保全の双方に貢献するような森林保全、循環型経済への積極的な関与 …など

- 環境的側面だけでなく、地域の伝統・文化保全への配慮や地域課題の解決等「社会文化的側面」や、地域・事業者の利益や観光客満足をもたらす等「経済的側面」も配慮されているか？

- グリーンウォッシュやSDGsウォッシュ（実態を伴わないのに、あたかも環境に配慮しているかのように/ SDGsに取り組んでいるように見せかけること。上辺だけの環境訴求）にならないよう、サステナブルでないものが紛れ込んでいないか細部にわたって十分に注意を払っているか？

- 参加者にとって、観光旅行として魅力的なものであるかが考慮されているか？

5. 出典一覧

P9【No1.旅行業】

- * 1 出典：コロンLPG hybrid車メーカー ケイテック(株)のWebサイト「LPG-HYBRID車とは」より
- * 2 出典：資源エネルギー庁「グリーンエネルギーCO2削減相当量認証制度ご利用ガイド」に基づいた策定方法により、「グリーン電力証書」に記載

P11【No2.地域活性化事業】

- * 3 出典：国土交通省「運輸部門における二酸化炭素排出量（旅客）（貨物）」
- * 4 出典：国立環境研究所 地球環境研究センターHP
- * 5 出典：総合エネルギー事業の(株)スマートテック調べによる5社のエアコン消費電力より、平均値を算出
- * 6 出典：環境省「令和3年度実績電気事業者別排出係数」
- * 7 出典：SCOPE3の算定支援等を行う(株)ウェストボックスのHP

P13【No3.建設コンサルタント】

- * 8 出典：国立環境研究所 地球環境研究センターHP
- * 9 出典：東京都観光局「交通手段別CO2排出量の計算シート」より

P15【No4.広告代理店】

- * 10 出典：SCOPE3の算定支援等を行う(株)ウェストボックスのHP
- * 11 出典：NPO法人 生ごみリサイクル全国ネットワーク
- * 12 出典：環境省 部門別CO2排出量の現況推計「2019年度 都道府県別データ一覧」

P17【No5.宿泊施設】

- * 13・17 出典：東京都環境局「交通手段別CO2排出量の計算シート」より
- * 14 出典：全国地球温暖化防止活動推進センター「2020年度一人当たりのCO2排出量(家庭部門)」
- * 15 出典：NPO法人 生ごみリサイクル全国ネットワーク
- * 16 出典：国土地理院「都道府県庁間の距離」

P19【No6.公営施設の管理運営】

- * 18 出典：林野庁「森林づくりによるCO2吸収量・簡易な『見える化』計算シート」より
- * 19 出典：全国地球温暖化防止活動推進センター「2020年度 家庭における日本人一人当たりのCO2排出量」より

6. サステナブルツーリズム関連用語集

※登場順

用語	説明
SDGs/エスディーゼーズ	2015年に国連が全会一致で採択した「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。「貧困や飢餓をなくす」「気候変動に具体的な対策を」といった17の目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットからなり、2030年までの達成を目指している。 特に経済成長と雇用に関する「目標8」、消費と生産に関する「目標12」、海洋資源に関する「目標14」の3つの目標には、観光の役割が明記されている。
気候変動問題	近年の地球温暖化に伴う気候変動によって世界各地で干ばつや熱波、猛暑、豪雨等の異常気象による自然災害が多発・甚大化しており、また、生態系にも変化をもたらし、農産物や海洋水産資源への影響も出ている。「気候変動」は、暮らしや経済活動に様々な悪影響を及ぼす事象を総括する言葉として使われ、格差や貧困などの社会的課題の原因にもなっており、いま世界で最も深刻な社会問題の一つ。
脱炭素 低炭素	地球温暖化の原因となる代表的な温室効果ガスである二酸化炭素の排出量をゼロにしようという取組のこと。CO2排出が実質ゼロになった社会のことを「脱炭素社会」という。 低炭素とは、炭素（CO2）の排出量が低く抑えられている状態を指す表現。
温室効果ガス	大気中に含まれる二酸化炭素やメタン、フロンガスなどのガスの総称。 温室効果ガスには、太陽から放出される熱を地球に閉じ込めて、地表を温める働きがある。
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、排出を全体としてゼロ（実質ゼロ）にすること。
オーバーツーリズム	観光地において、観光客の過度な増加等が、地域住民の生活及び自然環境や景観等に悪影響及ぼしたり、観光客の満足度を著しく低下させるような状況。
マイクロプラスチック	微細なプラスチックごみの総称で、5mm以下のものを言い、近年このマイクロプラスチックによる海洋生態系への影響が懸念されている。
LPGハイブリッド車	ガソリンと、コストが低く環境にも優しいLPガス 2つの燃料（ハイブリッド）を効率よく利用して走る、次世代の自動車。
グリーン電力 グリーンエネルギー	太陽光、風力、バイオマス、水力、地熱など、地球環境への負荷が少ない自然エネルギー（再生可能エネルギー）によって発電された電力のことで、発電の際にCO2を発生しないのが特徴。 グリーン電力の省エネルギー（化石燃料の節減）やCO2排出抑制といった環境付加価値を証書化し、「グリーン電力証書」という形で取引する仕組みがある。
再エネ	再生可能エネルギーの略。太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存在する熱・バイオマス（動植物に由来する有機物）など自然界に常在する、非化石エネルギーのことで、繰り返し使えて枯渇しない、どこにでも存在する、CO2を排出せず（増加させず）環境負荷が小さいという特性がある。
カーボンオフセット	日常生活や経済活動により排出されるCO2等の温室効果ガスの排出をまずできるだけ減らすよう努力した上で、それでも排出してしまう温室効果ガスの排出量を、他の場所での削減・吸収活動（削減・吸収量）により埋め合わせるという考え方。
地産地消	その地域で生産されたものをその地域で消費すること。生産地と消費地が近いと輸送によるCO2排出の削減につながる。
ハラール ハラール	イスラム教の教えにおいて「許されている」という意味のアラビア語で、イスラム法において合法なもの（神に許された「もの」や「こと」）のこと。食においては、イスラム教徒＝ムスリムが食べられるものを指す。
ビーガン・ヴィーガン	ベジタリアン（菜食主義者の総称）の中の1つで、卵や乳製品を含む動物性食品を一切口にしない「完全菜食主義者」のこと。
ビーチクリーン	海岸清掃をすることで、海岸の景観や海洋の生態系を守る活動。
フードロス 食品ロス	本来食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。ごみの増大→ごみ処理コストの増加、可燃ごみとして燃やすことでCO2排出や焼却後の灰の埋立等による環境負荷などの問題がある。
マイクロツーリズム	自宅から1～2時間圏内の地元や近隣で観光する短距離旅行のこと。

6. サステナブルツーリズム関連用語集

用語	説明
インタープリテーション interpretation	サステナブルツーリズムの一形態であるエコツーリズムにおける環境教育的要素に必須なもので、活動や体験を通して環境保全を実感・共感するために、きちんとした「解説 (interpretation)」を実施することを表す用語。口頭による現場での解説のほか展示や動画による事前解説、スマホなどでの情報提供（資源節約の観点から紙類の配布はできるだけ避ける）など様々な形がある。
循環農法 循環型農業	化学肥料や農薬に頼らず、廃棄物等を肥料とするなど有機資源として活用、資源を循環させて環境負荷の軽減を目指す持続的な農業体系。
e-Bike	電動アシスト機能付きスポーツ自転車。eはelectric(電気の)の頭文字。
EV	Electric Vehicleの略で、電気自動車のこと。
コンポスト	家庭から出る野菜くずなどの生ごみや枯れ葉などの有機物を、微生物の働きにより分解・発酵して堆肥を作ること（堆肥化）、またその退避のこと。
ミートフリー	牧場確保のための森林伐採や、大量の水や穀物を必要とする家畜の飼育、温室効果のあるメタンガスを発生する牛のゲップ…等畜産などで生じる環境負荷を低減するため、肉の消費を減らす取組のこと。
輻射式	エアコンに比べ体感温度が±2℃異なるため、省エネ性能に優れた冷暖房方式。
エコツーリズム	地域固有の自然環境や歴史文化を体験し学ぶとともに、その保全にも責任を持つ観光のあり方。

添付資料

「福岡市サステナブルツーリズム推進事業」 におけるモデルツアー実施後アンケート調査

続いて、第2部をお願い致します。

II. 「持続可能な観光指標」に関する自己評価（問1～問58）

⇒ 全50問です（設問数が多いですが、選択式でパッパッと回答いただけますので何卒お願い申し上げます）

⇒ 回答方法：「ない/いいえ」（0点）、「今後準備する予定である」（50点）、「ある/はい」（100点）、「自社事業に該当しない」からの選択形式

※世界持続可能観光協議会（Global Sustainable Tourism Council=GSTC）が策定した**国際基準GSTC（Global Sustainable Tourism Criteria）**は、観光業界がサステナブルツーリズムを実現する上で、最低限達成すべき基準を設けています。本アンケートは、A.効果的で持続可能な計画（マネジメント）、B.地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、C.文化遺産の活性化・最大化、D.環境負荷の軽減の主要4分野からなる、宿泊施設やツアー会社向けの「GSTC-I（GSTC Criteria for Tourism Industry）」をアレンジ・抜粋して作成しています。

※GSTC-I（観光産業向け基準）の詳細には、**より持続可能性を高めたい全ての企業規模事業の基本ガイドライン**として様々な活用法が掲載されていますので、下記をご参照の上、ぜひ皆さまの事業にお役立ていただくとともに、サステナブルツーリズムへの理解を深めていただけますと幸いです。

【GSTC-I 観光産業向け基準】

https://www.gstccouncil.org/wp-content/uploads/GSTC-I-Criteria-Only-v3Dec2016_Japanese.pdf

セクションA：効果的で持続可能な経営管理の明示

※設問文中のA1、B2などは、GSTC-I「観光産業向け基準」の各項目に該当し、本アンケートは抜粋作成のため、数字が飛んでいる場合があります。上記のURLの基準項目説明を、ご回答の補助としてお役立てください。

1. A1. 持続可能な経営管理について、おうかがいします。

①実際の事業規模や活動範囲に合わせ、環境、社会、文化、経済、品質管理、人権、衛生管理、安全問題等に配慮した、長期的かつ持続的な経営の管理を行っている、もしくは管理制度・体制がある。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

2. A3. 報告と伝達について、おうかがいします。

①持続可能性に関する方針や行動計画、実施内容などについては、内外のコミュニケーション資料の中で報告している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

3. A3. ②コミュニケーションにおいては、顧客や関係者による支援を促すメッセージを含んでいる。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

4. A4. 従業員の参画について、おうかがいします。

①従業員は、持続可能な運営体制について策定段階から実践まで関わっている。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

5. A4. ②持続可能な運営を行っていく上で、従業員がその役割や責任について指導や研修を受けた記録（出席記録や実地研修の記録）がある。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

6. A5. 旅行者の体験について、おうかがいします。

①持続可能性の観点を含めて、旅行者（利用客）からの意見（苦情含む）を取り入れるシステムがあり、その意見を分析している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

7. A6. 正確な広告宣伝について、おうかがいします。

①持続可能性を主張する商品やサービスに関するプロモーション資料の内容は、実際に提供している体験や訪問場所であり、間違いや誤解を生じないものになっている。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

8. A7.4. すべての人のためのアクセスについて、おうかがいします。

①身体障がいやその他特別な補助が必要な人が観光地や建物にアクセスでき、活動に参加できるようにしている。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

9. **A9. 情報および解説** について、おうかがいします。

①訪問地域の自然環境や文化遺産に関する情報/解説を、顧客に提供している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

10. **A9. ②訪問地域での適切な振る舞い・行動規範** についての情報を顧客に提供している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

セクションB：地域コミュニティの社会的・経済的な利益の最大化、悪影響の最小化

11. **B1. 地域支援** について、おうかがいします。

①事業体は、地域コミュニティに対し、商業的支援、現物給付、専門性を生かした奉仕活動などを行い、公益に貢献している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

12. **B2. 地域雇用** について、おうかがいします。

①管理職を含め、地域住民を雇用している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

13. **B2. ②地域住民の被雇用者** には、等しく研修や昇進の機会を与えている。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

14. B3. 地元での購入について、おうかがいします。

①プログラムで利用するサービス提供者や商品/体験を選択する際に、環境にやさしい基準を満たし、フェア・トレードに取り組む等地元で所有および運営されているものを優先して選んでいる。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

15. B9. 地域住民の生活について、おうかがいします。

①開発運営/実施に関する決定は、地域住民が生活する上で必要とするアクセスについて考慮されている（観光化していない本来の生活を続けられている）。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

セクションC：文化遺産の魅力の最大化、悪影響の最小化

16. C2. 文化遺産の保護について、おうかがいします。

①事業体は、活動を行う/訪問する主な地域にある文化遺産（歴史的、考古学的、文化的、精神的に重要な地域の財産、遺跡、伝統など）の保護・保存に対して金銭的な貢献またはその他の支援を提供している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

17. C2. ②事業体は、活動を行うことで、当該観光地への地域住民のアクセス・利用を妨げていない。（例：祭りで毎年決まっている神輿の通行ルートを邪魔している、神聖な祈りの場所へのアクセスが観光客によって阻害されている等）*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

18. C3. 地域文化や遺産の提示について、おうかがいします。

①訪問した観光地とそこで提供された体験は、地域独自の芸術、建築、文化遺跡等地域の文化と遺産の本物の体験・見学を提供している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

19. C3. ②地域の文化遺産と伝統が、料理、小売、イベント、その他の提供されるサービスの中に現れている。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

20. C3. ③地域独自の文化遺産であるデザイン、モチーフ、芸術等を取り入れる場合は、著作権および知的財産権を遵守し、必要な許可を取得している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

セクションD：環境メリットの最大化、環境負荷の最小化

21. D1. 資源の保全

D1.1. 環境に配慮した購入について、おうかがいします。

①建材、資材、食品、飲料、消耗品等環境に配慮した購買方針がある（文書化されていることが望ましい）。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

22. D1. 資源の保全

D1.1. ②環境についての認証を取得している製品とサプライヤーを優遇しており、認証を取得している製品が入手できない場合は、原産地と栽培または生産の方法について考慮している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

23. D1. 資源の保全

D1.1. ③ツアーで選定、紹介するサービス提供者やその他のオペレーターは、可能な限り、環境/持続可能性に関する認定を受けており、認定されている事業者を利用できない場合は、サービス提供者の持続可能性に関する実績を考慮し、必要な改善を伝えた上で利用している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

24. **D1. 資源の保全**

D1.2. 効果的購入 について、おうかがいします。

①商品や消耗品の購入においては、再利用、回収、リサイクルが可能な商品を優先している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

25. **D1. 資源の保全**

D1.2. ②消耗品や食品を含めた使い捨て商品の使用や購入については、モニタリングおよび管理をしている。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

26. **D1. 資源の保全**

D1.3. 省エネルギー について、おうかがいします。

①運営/実施で使用されるエネルギー量や、事業体が直接影響/管理しているエネルギー量を、モニタリングおよび管理している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

27. **D1. 資源の保全**

D1.3. ②総エネルギー消費量と、利用者の活動（宿泊、旅行など）によるエネルギー消費量を測定し、把握している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

28. **D1. 資源の保全**

D1.3. ③エネルギーの使用を最小限に抑えるための設備と手法を活用している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

29. **D1. 資源の保全**

D1.3. ④エネルギー消費を削減するための目標（値）を設定している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

30. **D1. 資源の保全**

D1.3. ⑤従業員と顧客（利用者）には、エネルギー使用を最小限に抑えるための指導を提供している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

31. **D1. 資源の保全**

D1.4. 節水について、おうかがいします。

①事業体の運営に使用している水や、事業体が直接影響/管理している水は、モニタリングおよび管理している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

32. **D1. 資源の保全**

D1.4. ②水の消費を最小限に抑えるための設備と手法を活用している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

33. **D1. 資源の保全**

D1.4. ③水の消費量を削減するための目標を設定している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

34. **D1. 資源の保全**

D1.4. ④従業員と顧客（利用者）には、水の使用を最小限に抑えるための指導を提供している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

35. **D1. 資源の保全**

D1.4. ⑤従業員と顧客（利用者）には、エネルギー使用を最小限に抑えるための指導を提供している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

36. **D2. 汚染の削減**

D2.1. 温室効果ガスの排出 について、おうかがいします。

①事業体の管理下にある全ての温室効果ガス排出発生元のうち、年間で大きな影響を与える排出となるものの回避および削減を実施するための措置を取っている。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

37. **D2. 汚染の削減**

D2.1. ②製品やサービスのサプライヤーに、年間の大幅な温室効果ガス排出を回避および削減を促す行動に取り組んでいる。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

38. **D2. 汚染の削減**

D2.1. ③カーボンオフセットの取組みは、可能な限り実践できる場所で利用し、クレジットの購入より優先している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

39. D2. 汚染の削減

D2.2. 交通・輸送手段について、おうかがいします。

①利用可能であれば、代替（気候にやさしい）交通手段に関する情報を顧客に提供、宣伝している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

40. D2. 汚染の削減

D2.2. ②顧客と従業員のための代替交通手段（自転車レンタル、カーシェアリング、相乗りなど）を提供または利用促進している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

41. D2. 汚染の削減

D2.2. ③近場の、または持続可能な交通手段でアクセスが可能な距離の来訪者マーケットを重視している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

42. D2. 汚染の削減

D2.2. ④自らの営業等事業でも、交通の使用をできるだけ控えサイクリングや徒歩を推進、または環境負荷の小さい交通を優先している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

43. D2. 汚染の削減

D2.4. 廃棄物について、おうかがいします。

①食品廃棄物を含む廃棄物を削減する仕組みを設けている。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

44. D2. 汚染の削減

D2.4. ②削減できない廃棄物については、再利用またはリサイクルする仕組みを確立している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

45. D2. 汚染の削減

D2.4. ③特にプラスチックなどの使い捨て容器の削減や廃止を推進している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

46. D2. 汚染の削減

D2.4. ④製品やサービスの顧客、従業員、商品やサービスのサプライヤーに対して、廃棄物を最小限に抑える指導を提供している。*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

47. D2. 汚染の削減

D2.6. 汚染の最小化について、おうかがいします。

①以下の汚染発生元からの環境汚染・公害を最小限に抑え、可能な場合は排除するための措置を取っている。

a. 騒音*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

48. D2. 汚染の削減

D2.6. ②以下の汚染発生元からの環境汚染・公害を最小限に抑え、可能な場合は排除するための措置を取っている。

b. 照明*

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

49. D2. 汚染の削減

D2.6. ③以下の汚染発生源からの環境汚染・公害を最小限に抑え、可能な場合は排除するための措置を取っている。

c. 流出水 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

50. D2. 汚染の削減

D2.6. ④以下の汚染発生源からの環境汚染・公害を最小限に抑え、可能な場合は排除するための措置を取っている。

d. 地表浸食 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

51. D2. 汚染の削減

D2.6. ⑤以下の汚染発生源からの環境汚染・公害を最小限に抑え、可能な場合は排除するための措置を取っている。

e. オゾン層破壊混合物 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

52. D2. 汚染の削減

D2.6. ⑥以下の汚染発生源からの環境汚染・公害を最小限に抑え、可能な場合は排除するための措置を取っている。

f. 大気汚染物質 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

53. D2. 汚染の削減

D2.6. ⑦以下の汚染発生源からの環境汚染・公害を最小限に抑え、可能な場合は排除するための措置を取っている。

g. 水質汚染物質 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

モデルツアー実施後アンケート

54. D2. 汚染の削減

D2.6. ⑧以下の汚染発生元からの環境汚染・公害を最小限に抑え、可能な場合は排除するための措置を取っている。

h. 土壌汚染物質 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

55. D3. 生物多様性、生態系、景観の保全

D3.1. 生物多様性の保全 について、おうかがいします。

①事業体は、自然保護区と訪問地域の生物多様性価値の高い場所について認識している。 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

56. D3. 生物多様性、生態系、景観の保全

D3.1. ②事業体は、活動/訪問を行う主な地域での生物多様性保全へ金銭的または物質的な支援を行い、記録している。 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

57. D3. 生物多様性、生態系、景観の保全

D3.3. 自然地域への訪問 について、おうかがいします。

①事業体は、自然保護地域への観光客の訪問に関する既存のガイドラインを認識して、これに準拠して運営している。 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない

58. D3. 生物多様性、生態系、景観の保全

D3.3. ②グループ訪問の人数、頻度、タイミングを決定する際に、自然のある場所の受入容量と脆弱性、および来訪者による圧迫のレベルについて考慮している。 *

- はい/ある
- 今後準備する予定
- いいえ/ない
- 自社事業に該当しない